

令和4年度

第4回 学校運営協議会～はりはらの会～



学習発表会・12月

令和5年2月3日（金） 午後2時00分から

浜松市立曳馬小学校

今年度の計画（予定）

第1回 学校運営協議会 5月2日（木）10時20分～11時30分
熟 議

- ①「令和4年度 学校運営の基本方針」について（校長）
- ②「学校支援の在り方」について（影山）
- ③「夢育やらまいか事業」について（教頭）

第2回 学校運営協議会 6月9日（金）10時20分～11時30分
熟 議

- ①「学校の支援の在り方」について（会長）

第3回 学校運営協議会 9月26日（火）10時00分～11時30分
熟 議

- ①「学校の支援の在り方」について（会長）
- ②「学校の課題」について（影山）

（12月上旬頃 学校運営協議会自己評価アンケート送付 12月末〆切）

第4回 学校運営協議会 2月1日（木）10時00分～11時30分
熟 議

- ①「学校関係者評価」について（会長）
- ②「来年度の学校運営基本方針」について（校長）
- ③「学校運営協議会自己評価」について（会長）

※現時点の予定です。今後、変更になる場合があります。

令和4年度 第4回 学校運営協議会 ～はりはらの会～

1 日 時 令和5年2月3日(金) 14時00分～15時30分

2 会 場 浜松市立曳馬小学校 多目的室

3 内 容

(13時10分～13時40分 参観会の授業参観〈各教室〉)

14時00分～15時30分 学校運営協議会〈多目的室〉

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 熟 議

①「学校関係者評価」について(会長)

②「来年度の学校運営の基本方針」について(校長)

③「学校運営協議会自己評価」について(会長)

その他

①夢育やらまいか事業報告

次回開催(第1回 学校運営協議会 ～はりはらの会～)

5月2日(火) 10時20分～11時30分

学校運営協議会出席者名簿

学校運営協議会委員

会 長	鈴木 厚
副会長	飯尾 忠弘
委 員	川井 啓介
委 員	小楠 和子
委 員	加藤 美智子
委 員	飯尾 智弘
委 員	池村 俊典
委 員	中田 篤志
委 員	丸茂 早織
委 員	中津川 涼

オブザーバー

曳馬協働センター	瀧 尚也
主任児童員	中村 佐知枝

学 校

校 長	竹内 孝夫
教 頭	花井 清孝
CS担当教職員	影山 重広
CSディレクター	内堀 邦子

浜松市教育委員会

教育総務課	鈴木 陽子
-------	-------

令和5年度 教育課程編成に当たって

《 R4の学校経営構想 》

基本方針	夢を持って 高め合い たくましく生きようとする子			
教育目標	心やさしく	ねばり強く	学び続ける子	
目指す子供像	ひとの気持ちの分かる子	苦しくても負けない子	学ぶ楽しさの分かる子	これからの描く子
部	徳（ひ部）	体（く部）	知（ま部）	
キャリア 基礎的・ 汎用的能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・自己 管理能力	課題対応能力	キャリアプラン ニング能力
重点	児童の主体性・協働性を育むよう「自己肯定感」「伝え合う力」を高める			
研究主題	共に学び 高め合う ～主体的な学びを生み出す授業・単元づくり～			

○ 学校経営の基本方針と学校教育目標

★基本方針のほうの方が明るさや前向きさが感じられ、学校目標に相応しいのではないか。

基本方針 「夢を持って 高め合い たくましく生きようとする子」の育成
教育目標 「心やさしく ねばり強く 学び続ける子」

○ 子供像

★能動的なイメージがやや薄い

- ・ひとの気持ちの分かる子 …
- ・人の気持ちって分かった気になっていい？
- ・分からなくても思い巡らすことが大切では？
- ・思い巡らせてどう行動するかが最も大切！
- ・苦しくても負けない子 …
- ・楽しさの分かる子が苦しいと思う？
- ・苦しいときは休む（逃げる）ことも大切！
- ・学ぶ楽しさの分かる子 …
- ・子供が目指すことではないのでは？
- ・「楽しく学ぶ子」のほうがいい！

★徳・体・知と結ぶこととには無理があるのでは？

※「体」ばかりに「鍛える」「苦しい」といったイメージを与えない方がよい！

○ キャリア教育で育てたい4つの態度・能力

★学校全体では「～～する力」「～～しよう」のほうの方が子供たちも理解しやすい。

○ 重点

★キャリア教育や授業改善と関連するほうがより高められるのではないか

・「伝え合う力」はかつて「校内研究のサブテーマ」になっていたが・・・

令和5年度教育課程の編成方針

1 基本方針

- ◎「夢を持ち 高め合い たくましく生きる子」を育てるための教育課程編成
(R4：夢を持って 高め合い たくましく生きようとする子)

令和5年度を「今、曳馬っ子にどのような力が必要なのか、そのためにはどのような教育を目指さなければならないのか」を協議する1年としたい。

新学習指導要領や一人1台タブレット配備のような言わば「外的要因」への対応ではなく、明朗快活で好奇心旺盛な曳馬っ子らしさを存分に引き出すための「内的要因」を重視した教育改革を推進する。

2 教育課程編成の方向性

(1)「学校教育目標」「目指す子供」「重点」の再構築

- ① 令和5年度は、令和4年度と同じ

- ② 令和5年度9月までに方向性を決める

※ 令和6年度に向け、令和5年度前期のうちに検討する

- ◎ まず「イ」から決める

ア「学校教育目標」

・現行の「基本方針」をたたき台として「学校教育目標」を検討する

イ「目指す子供像」(ひ・く・ま)

- ◎『学習推進部』(研推中心)で検討

○キャリア教育でつける力をもとにした「姿」にする。

・キャリア教育の4つの「基礎的・汎用的能力」を見直していく。

・「姿」ではなく「態度・能力」にする。「徳・体・知」と共用しない

※ できれば「分かる」「負けない」より、能動的な動詞にしたい

「描く」はOK!

例) 「みらいにつなぐ力」「みらいにつなげよう」など

ウ 「重点」(伝え合う力・自己肯定感)

○キャリア教育で育てる力とそろえたい

・人間関係形成・社会形成能力 … 「伝え合う力」?

・自己理解・自己管理能力 … 「自己肯定感」?

○キャリア教育で育てる力4つの力の中から2を重点とするか否か

- ③ 令和6年度(150周年)に新たな学校教育目標での教育を

(2) 目指す学校像(案)

子供が「知りたい」「やってみたい」をかなえる学校

(3) 編成の視点

① 時代の要請に応じた教育課程を

将来の予測が困難な時代、子供たちには社会の変化に受け身で対処するのではなく、よりよい社会と幸福な自分を創り出していくことが求められる。

また、持続可能で誰一人取り残さない社会の担い手となるため、子供たちには豊かな心を持ち、周りの人と協力しながら生きていくことも求められる。

ア 学習指導要領を確実に実行する教育課程

○ 育成すべき資質・能力（3つの柱）をおさえた指導を

- ・生きて働く「知識・技能」の習得
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

○ 「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善を

イ 「令和の日本型学校教育」を踏まえた学校教育

○ 「個別最適な学びと協働的な学び」の実現を

- ・多様性・包摂性のある学校風土の醸成
- ・ICTの利活用

② 『はままつの教育』を反映させた教育課程編成を

第3次浜松市教育総合計画で目指す子供の姿

- ・「自分らしさを大切にする子供」
- ・「夢と希望を持ち続ける子供」
- ・「これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供」

を、特にキャリア教育を核として具現化していく。

令和5年度は、今一度自校に相応しいキャリア教育を模索し方向付けをしていく。

○ 「今と将来をつなぐ」「自分と社会をつなぐ」キャリア教育の実現を

○ 「4つの育てたい態度・能力（基礎的・汎用的能力）」をおさえた指導を

- ・キャリアパスポート等でのキャリア発達の意識化

育てたい態度・能力 (基礎的・汎用的能力)	文科省 手引きより育てたい力の例 ※太字は曳馬小に近いもの
ひとの気持ちの分かる子 (人間関係形成・社会形成能力)	他者の個性を理解する力 、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ
苦しくても負けない子 (自己理解・自己管理能力)	自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、 忍耐力 、ストレスマネジメント、主体的行動
学ぶ楽しさの分かる子 (課題対応能力)	情報の理解・選択・処理等、 本質の理解 、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善
これからを描く子 (キャリアプランニング能力)	学ぶこと・働くことへの理解、多様性の理解、 将来設計 、選択、行動と改善

③ 曳馬っ子の実態に応じた教育課程編成を

令和4年度まで「本校の子供たちは素直で真面目だが、ねばり強さやたくましさ欠ける面が見られる」という理由から、ねばり強さやたくましさを育てるため、一人一人の「自己肯定感」を高め自分を大切にする気持ちを育ててきた。

しかし、曳馬っ子は総じて好奇心旺盛で、物おじしない人懐っこさを持ち合わせており、こういったよさを伸ばすことこそが、自己肯定感・伝え合う力の高揚、ひいては主体性・協働性の育成につながると考える。

子供たちの興味・関心や人とのかかわりを大切にした教育を展開していきたい。

3 令和5年度 曳馬小運営組織・機関

(1) 「生徒指導委員会」改革

① 「生徒指導委員会」を「職員会議」に続いて開催（全教員参加）

・生徒指導委員会を“情報共有・共通理解”“校内生徒指導研修”の場とする

② 2つのチームを設置

ア. 『学校生活チーム』〔主幹、生指主、学年生徒指導、養教1人〕

※ 学校生活全体の課題に対応する。

- ・「発達支持的生徒指導」「課題未然防止教育」に取り組む
- ・下図の「B」の子にも留意した「温かい全体指導」を目指す

イ. 『個別支援チーム』〔頭、生主、いC、発C、外国、教育相談、養教〕

※ 配慮を要する児童の課題に対応する。

- ・「課題早期発見対応」「困難課題対応的生徒指導」に取り組む
- ・主に下図の「C」の子の「個別最適な指導」を目指す

生徒指導提要（R4.12月改訂）より キーワード『2軸3類4層』

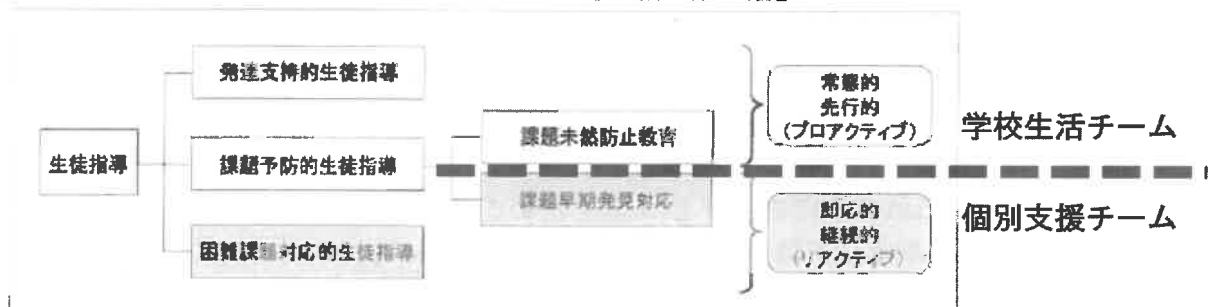


図1 生徒指導の分類

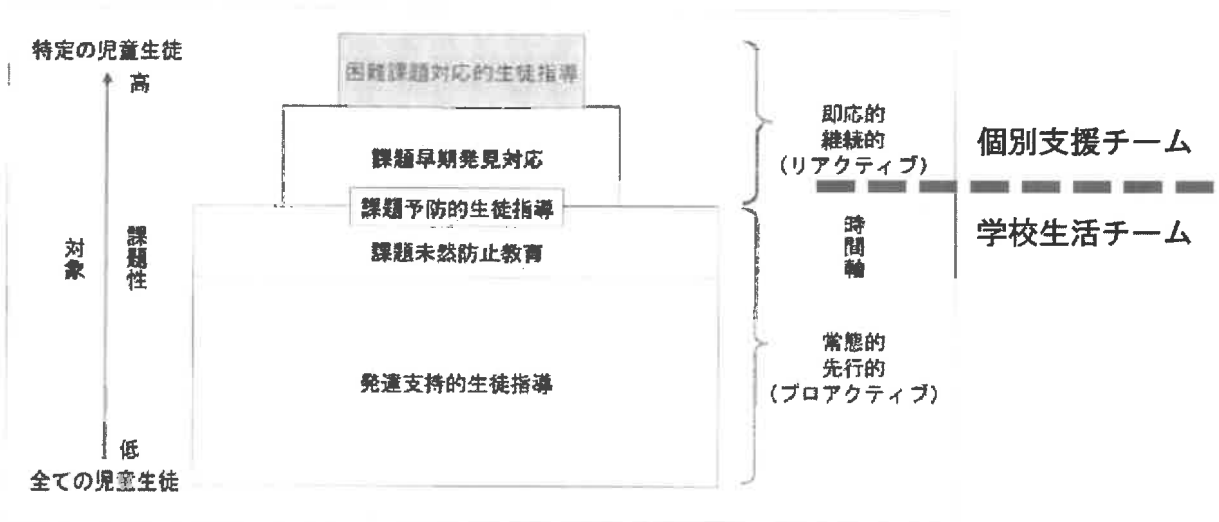
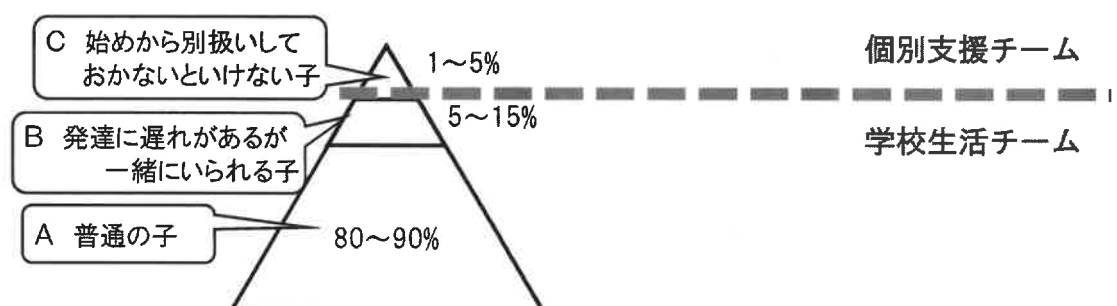


図2 生徒指導の重層的支援構造



(2) 「ひ部」「く部」「ま部」 → 『学習推進部』『安心安全部』に

※ 別紙参照

① 『学習推進部』『安心安全部』を指導・支援の両輪に！ 軸は「学年部」！

★学年部が『学習推進部』『安心安全部』を駆動させる組織に

- ・「教務部」 … 企画委員会
- ・『学習推進部』 … 研推
- ・『安心安全部』 … 学校生活チーム、個別支援チーム

② 運営組織、教育課程編成、データ管理の一体化

- ・ 1・2月 教育課程編成は提案通り「ひ部」「く部」「ま部」で
- ・ 3月 「曳馬っ子教育計画」の目次は『学習推進部』『安心安全部』で
- ・ R5年度の、職員室サーバのフォルダーを新しい組織図にそろえる

4 教育課程編成の留意点

(1) 学年の発達段階に応じた計画を

- ・ スタートカリキュラム
- ・ 教科担任制

(2) 改善点の本年度中の実施を

- ・ R5 … 4/1・2は土日
4/3（月）第1回職員会議
6（木）始業式
7（金）入学式

(3) 「子供たちの興味・関心」「人とのかかわり」を大切に

- ・ 児童会活動の活性化
- ・ 体験・実感を大切にしたりはら学習

(4) 楽しく運動する子に

* 『「体」育』は、校外（部活）から校内（学年集会、運動委員会イベント）へ

(5) エネルギーがたまる働き方改革を

- ・ 新しいことに挑戦を！
(小さな失敗は「成長のチャンス」ととらえるポジティブな思考で)
- ・ 保護者・地域を味方に！ (「子育て支援」が結果的に「学校支援」になる)
- ・ 「質(密度)」を高めて「量」を縮減！
※密度の濃い仕事 … 個の力の結集(チームで)、気力の集中(メリハリを)

縮小

5 部活動

(1) 部活動の在り方

①陸上部

◎本年度をベースに練習回数、種目数を縮減

- ・ 練習日は本年度より増やさない
- ・ 種目は来年度、教員、児童の実態に応じて決定

②回泳部

◎部活動とせず、体育で10分間回泳が合格しない子に希望をとり、特訓日を3～5日程度設ける

- ・ 実施日（回数）は、新5年生の泳力等の実態を見て決める
- ・ 参加希望確認は、該当児童へさくら連絡網のアンケートで

③水泳部

◎希望者は体育で記録をとり、2回練習して記録会に参加

- ・ 「水泳部」という言葉は残す。（所属を明確にするため）
- ・ 回泳教室のない日に練習（記録測定、スタート・引継ぎ練習など）
- ・ 体育での記録測定は、合同体育にするなど学年内で協力する。
 - ・ エントリーに合わせて記録をとる必要がある
 - ・ 自己ベストの意識化は必須

(2) 担当

◎どのように決めるかも含めて、年度末企画で検討

- ・ 回泳教室 5年生の体育担当者を中心に
- ・ 水泳 6年生の体育担当者を中心に
- ・ 陸上部 上の担当者を除いて何名か
 - ・ 神久呂小方式（火・木で分担）は可能か？

(3) 保護者周知

◎2月の学校だよりで保護者へ知らせる

2017/130
今年に回泳部

令和5年度の登校について

1 「自律登校」を試行した背景等

○様々な個性や健康状態、家庭環境等により、通学班とは別に登校してくる子供もいるのが現状です。個々の案件についてPTAが柔軟に対処してくださっていますが、通学班が子供の負担になっているといった声は、以前から複数の保護者からいただいていた。

登校時より下校時の方が、子供たちの表情がいいという声もうかがっていました。

○近年、全国的に児童生徒の自主性・主体性、多様性等を尊重して校則を見直すなど、子供の権利を尊重しながら、できるだけ自分自身で考えて行動する力をつけることが、将来のために必要であると考えられています。

今年度、下校時、体調不良の下級生を気遣う行動ができた上級生を善行表彰しました。こうした自らの意思で行動できる場面は、子供たちの成長にとって大切だと考えています。

○少子化で通学班のエリアが少しずつ広がる傾向にあると考えられます。歩く距離が長いほどリスクは増すことも考えられます。

◆下校時同様、通学班登校でなくても、曳馬小の子供たちのまじめさ、優しさがあれば、ある程度自分で判断し安全で思いやりある行動がとれるのではないかと推測し、1カ月間自律登校を試行し、効果や課題を検証させていただくことにいたしました。

2 試行後アンケートの考察 ◎結果の詳細は別紙参照

(1) 数値アンケート

① どのような方法で登校することがよいと思われましたか？

	保護者	5・6年生
A. 今まで通り	26%	8%
B. 学期はじめのみ通学班登校	29%	18%
C. 自律登校	45%	74%

◆保護者は「自律登校がよい」とする考えが多い一方、過半数(A+B 55%)は「通学班は必要」と考えています。

◆保護者以上に自律登校が良いと考えている5・6年生が多くいました。

② 11月、主にどのように登校していましたか？

	保護者	5・6年生
兄弟で登校	22%	14%
近くの子と一緒に登校	45%	61%
1人で登校	27%	23%
その他(保護者同伴等)	6%	2%

◆「1人で登校」した児童は、約4分の1でした。

(2) 記述アンケート

- ◆ ご意見が分かれた理由、背景として、登校方法を考える際に重要視する視点、さらにはその視点からとらえたお子さんの様子、地区・家庭の実情、気になった光景・情報などが個々によって異なり、多様であることが窺えました。
いずれも大切にしなければならないと考えます。

《主な視点》

- ・交通安全（横断、登校経路、下級生への支援）
 - ・登校・旗振りの時間帯（見守り隊・保護者の負担）
 - ・通学班の決定、運営（役員の負担）、保護者同士の連絡
 - ・児童同士の連絡（欠席、遅刻等の班内の連絡）、時刻の把握（時計がない）
 - ・異学年のつながり、思いやり、協調性
 - ・児童の様子・思い、自主性
 - ・児童の個性・特性（集団が苦手、登校渋り等）
- ◆ P T Aや地域のご理解、ご協力なくして安心・安全な登校は難しいことも明確になりました。
 - ◆ 「通学班登校」「自律登校」にはそれぞれよさと課題があり、二項対立で考えず、より多くのご意見が実現できる登校方法、登校支援にしていかなければなりません。

3 学校から P T A へのお願い

◎ P T A に中心となって決めていただきたい

- 通知等は、会長と校長の連名（会長が上）でお願いします。

4 学校からの P T A へのご提案

(1) 令和5年度の登校方法【案】

- 「通学班」は継続
- 「自律登校」の期間を設ける
 - ・ 計2～4カ月ぐらいがよいと考えています。

(2) 進め方【例】

① 検討会を開催

- ・ 参加： P T A運営委員・安全部、町代表
 - ※ 可能であれば見守り隊の参加もお願いしたい
- ・ 内容：
 - ・ 自律登校の期間の決定
 - ・ 自律登校期間中の旗振り対応
 - ・ 通学班トラブル等の対応（ご意見をもとに変更点があれば）

② 全保護者への状況報告、見守り隊（自治会）への説明

③ 承認（P T A総会）

令和4年度 取組

令和4年度の取組

<p>【徳】ひとのまもりが分かる子 自分を尊重し、思いやりの心を持ち、互いに高め合い強制的の心を育てる。 ①ア人間関係能力の育成 ②ア価値を高める道徳教育 イ一人一人を大切に生徒指導 ③ア心地よい居場所のある学級経営</p>	<p>【体】くるしくても負けない子 健康で安全な生活の基礎を身に付け、目標に向けやり抜くたくましく健やかな心と体をつくる。 ①ア励まし合い教え合う体育科学習 イ課題解決力と所属感のある活動 ②ア目標の達成感のある行事 イ命を大切に教育の充実 ウ保健・給食指導健やかな体</p>	<p>【知】学ぶ楽しさの分かる子 課題解決に向けて、主体的に粘り強く取り組むとともに、協動的な学びを通して、深い思考と確かな学力の向上を図る。 ①ア深い学びを生み出す授業づくり イ共に学ぶ良さ味わえる指導 ②アICT機器を活用した授業改善 イ実態に即した教科担任制の試行</p>
---	--	--

II 自己評価

保護者の評価	児童の評価
①自分のよさに気付いている。	82.5%
②友達や自分の周りにいる人のよさに気付いている。	84.2%
③友達や自分の周りにいる人と力を合わせて生活している。	93.3%
④気持ちのよいあいさつや言葉づかいをしている。	92.5%
⑤自分の健康に気を付けて、心も体も元気に生活している。	94.8%
⑥自分から進んで、体力づくりや運動に取り組んでいる。	92.7%
⑦約束やまきまりを守り、安全に生活している。	87.5%
⑧「やってみたい」「できるようになりたい」という気持ちをもって学習している。	90.5%
⑨友達のことをしっかりと聞き、理解しようとしている。	89.1%
⑩自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えようとしている。	93.0%
⑪授業では「わかった。」「できた。」「と思うことがある。	81.2%
⑫【(学年+1)×10分間】、進んで家庭学習に取り組んでいる。	89.2%
⑬自分の将来や目標に向かい、前向きに努力している。(キャリア教育)	90.4%
⑭毎日楽しく学校に通っている。	89.9%
⑮学校は、たよりやプログラムを通して、家庭に学校の様子がよく分かるように伝えている。	81.1%
	82.7%
	90.1%
	92.2%
	91.5%

保護者の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学年となり、できることが増えた子が多い。 ・楽しく学校に通えている子が多いが、心に不安を感じている子もいる。 ・学校行事は、運動会や学習発表会等を、学校で工夫して実施できてよかった。 ・子供たちの言葉遣いが気になる。 ・旗振りの際、ほとんど挨拶ができない子が多い。 ・学校で何かあったときには、様々なところに相談できる仕組みづくりがほしい。 ・授業に積極的に取り組んでいるので、家庭でも、実践している。 ・家庭学習については、一定量の課題を出すとともに、やる気や自主性を育てる工夫をしてほしい。 ・学年だよりやプログラムで、もっと子供たちの様子を伝えてほしい。 ・コロナ禍が、今後も続きそうなので、授業のオンラインがあるとうよい。

III 今後の改善方針(案)

◇学校行事は、学校・学級への所属感を大切に、今後も、形を工夫して実施していく。
 ◇授業については、「キャリア教育」の充実を図るとともに、授業に「主体的対話的で深い学び」になるように、授業改善を全職員で行っていく。
 ◇家庭学習については、見本となる児童の家庭学習ノートを掲示しプログラムで紹介したり、学習例を家庭でも見て参考にできるように、お便りを出したりして、工夫してできるようにする。
 ◇「あいさつ」や「言葉づかい」については、学校だけでなく、家庭や地域と一貫になって、みんなで声を掛けるようお便り等で呼び掛けを行う。
 ◇ICTを積極的に活用して、授業を行ったり、情報発信をしていく。プログラムについては、各学年1週間に一度は更新するようにする。



IV 学校運営協議会による学校関係者評価

学校運営協議会による学校関係者評価

令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立曳馬小学校運営協議会長

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 校長の示す学校運営の基本方針について目指す子供像やビジョンなどの説明を受け、しっかりと理解するよう熟議を重ねることが出来ました。
- 学校運営協議会2年目。本年3回目の会議のため熟議することができた。
- 今年度、仕事の都合がつかず出席できておりません。ご迷惑をお掛けして、誠に申し訳ありません。今後も同様の状態が続くと思いますので、大変申し訳ありませんが、来年度の就任は辞退させていただきます。よろしくお願いします。
- 学校運営の基本方針は、校長の熱意ある説明により充分理解できた。時間的制約があり熟議に至らなかったのが残念。
- 「学校経営構想」は校長先生から、ていねいな説明があり、基本方針など、素晴らしいものであると確認できた。それについての違う方向の意見はなく「熟議する」ことの必要はあるのでしょうか。もう経営書も印刷されていて、来年度のことで考えるなら少しはと思うが、基本方針はやはり校長先生の想いが中心だと思います。
- 学校運営の全体像や今後の計画について理解する事ができた。しかし1年目ということもあり進行についていくので精一杯だった。また、前年度からの続きのような雰囲気があり、どう発言していいのか悩む所がありました。
- 会を重ねるごとにより、な説明がありランドデザインはわかりやすくまとめてあるので理解できたが…
範囲が広すぎて熟議までは…と思います。
- 本年度も昨年同様に「学校経営構想」をもとに校長先生から説明があり、昨年から大きな変更はなかったので理解できた。もう少し時間があれば、熟議に至り理解が深まるのではないかと感じた。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 地域学校協働活動（コミュニティスクール）は熟議を重ねた結果、徐々に協力者も増え活発になって来ようになったのはとても嬉しいことです。
その中で一つ懸念があるとすると、（時代の流れなのかもしれませんが）公共事業に関係している企業に学校という施設で企業名を前面にだしてボランティアをお願いするというのは決して好ましいとは思わないことです。団体名で参加してもらえればどうでしょうか？
- 学校側で協力してもらいたい案件を更に精査する必要があると感じた。活発な熟議ができたが、協力者を増やす方法を今後話し合いする（熟議する）ことが必要
- CSの協力依頼の内容について、各委員会より豊富な情報提供があり熟議を進めることができた。CSコーディネーターが地域の情報と協力依頼のマッチングに、オブザーバーが多く情報と広く曳馬地区への広報に積極的に活動してくれ、年度途中で数多く協力が実現できた。結果として大きく前進ができた。
- 本年度の重点で「曳馬小ならでは」教育を推進するとあるが、具体的におうかがいしたい。学校行事への取り組みが気軽に見学できるようではないので、学校への支援とか協力とかはむずかしいと思う。熟議をするためには話し合いの時間をもっと必要であると思う。参観日の混雑した中で回らせていただいても、教室の中に入れないし、子供たちも普段の姿とはちがっていると思われるので、なくてもいいと思う。その分話し合いの時間をふやすか普段の授業を見せてもらう方がよい。
- 計画に対してこのような活動を行った等、わかりやすくまとめてあり、また、コーディネーターが積極的に進めて下さったので、とても参考になった。どう行動していけばいいのか、何を必要としているのか指標となった。
- CS協力依頼一覧表はわかりやすく見やすい。
窓口となる方が大変では…。何も協力できなかったと反省しています。事例を大切にしながら次のステップに発展させていけば今以上の地域に根差したものになっていくのではないかと思います。
- 授業支援について熟議を進めることができ、成果が得られたと思う。学校が地域から支援を得る際の留意事項についても共通理解をすることができ、有意義であった。

＜評価項目3＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- 熟議という言葉も段々と馴染んできて、来年度も委員同士意見を出し合う中で情報共有し、より良い学校運営が出来ていくよう努めてまいりたいと思います。
- 熟議する時間が増え、多くの意見が交換できた。次年度は情報発信の方法やCSへの協力者を増やす方法、学校側との情報交換方法など熟議したいと思った。
- CSの協力依頼を基本に、令和4年度の実績の検証と、さらにバージョンアップの可能性の熟議をしていく。CSの協力依頼以外に、各委員からの協力できる提案を元に、更に熟議をしていく。
- コミュニティスクールについて「曳馬協働センターだより」の地域回覧板やさらに「協働センターまつり」の展示物の中に協働センターの方が作ってくださった大きな展示物に感動しました。曳馬中、上島小とともに具体的な活動が写真とともに紹介されており地域のみなさんへの呼びかけがとても積極的にできていると思いました。来年度は地域のみなさんに全戸配付するようなパンフを作って呼びかけたらどうでしょうか。協力依頼の内容も地域のみなさんにわかりやすく具体的に「それなら私にもできる」と思っていたかないと、協力は得られないと思います。学校支援コーディネーターは各学校に必要だと思います。1人で3校のことをやっている池村さんが大変すぎると思います。
- 次年度は積極的に意見や思いを発言し、学校運営と子供達への力となれるよう協力していきたい。
- 子供達の日頃の様子が見られないので参観日だけではなく、行事、普段の比などにもこえをかけて下さると子供に実態を把握ができ、参加しやすく協力しやすくなるのではと思います。
- 子どもたちの姿に接する時間を充分得たいとおもう。本年度はコロナの影響を受けてなかなか実現できなかったが、来年度こそは、参観会に合わせるのではなく、生の授業中の姿を見せて欲しいし、会議の時間も十分にとってほしいと願っています。

コミュニティスクール協力依頼

学 年	実施月	教科(領域)	内 容	必要人数
1 年	5~7月	○生活科	朝顔や野菜の水掛け、草取り	PTA・学校 企 業
	1月	生活科	昔の遊びを子供たちに教えてもらいたい。 ・けん玉・おはじき・お手玉・あやとり・こ ま・めんこ など	5~10人
2 年	5~11月	生活科	町たんけん 校区内の施設や店の案内	若干名
	5~7月	生活科	野菜の育て方、苗の植え方	若干名
	6月	算数科	長さ ものさしの読み方 使い方	若干名
	6・7月	体育科	水泳指導の補助 顔つけ 水慣れ	若干名
3 年	11月	☆総合	曳馬地域についてのお話	地域・企業他
	5~8月	○理科	学年園の水掛け、草取り	PTA・学校 企 業
	通年	☆書写	片付けの見届け、筆の使い方指導	智弘 池村 小 粥
	6・7月	体育科	プール指導の補助	1~3人
	10月	☆図工	木工作品の色塗り	大石
	11月	☆図工	動くおもちゃづくり	曳馬地区 社会福祉協議会
4 年	通年	○理科	学年園の水掛け、草取り	PTA・学校 企 業
	4月	音楽	「さくらさくら」 琴の演奏 他の和楽器の基 本演奏 ※検討中	2人
	10・11月	社会	のこしたいもの、つたえたいもの 地域に残る建物 芸能 祭りについて 話と建物見学	若干名
	12月	書写	書き初めの指導	4人
5 年	6月下旬 9月	○家庭科	ミシン(10)調理実習(5)	智弘 山崎
	7月	体育科	水泳 回泳指導・監視	1人
	9月	☆総合	SDGs講師	常盤工業 エネジン他
	9~10月	体育科	跳び箱 補助(できれば女性の方)	1人

	5～8月	○理科	学年園の水掛け、草取り	P T A ・学校 企 業
6 年	7～9月	☆家庭科	ミシン 上糸下糸のかけ方 ミシンの操作、 調整	智弘 山崎
	通年	書写	片付けの見届け、筆の使い方指導	1～3人
	6月	総合・社会	校外学習 グループ活動やチェックポイント	10人程度
	2～3月	☆家庭科	ミシン 卒業に向けての取り組みの手伝い	智弘 山崎 万木
	5～8月	○理科	学年園の水掛け、草取り	P T A ・学校 企 業

☆本年度実施予定 ○P T A ・他団体・学校等で実施